

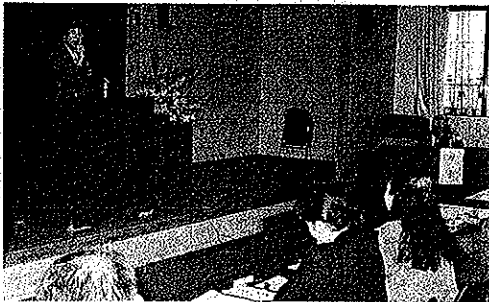
日本秘書学会広報委員会

札幌市豊平区清田4条1丁目4番1号004

静修短期大学内

☎(011)883-2490

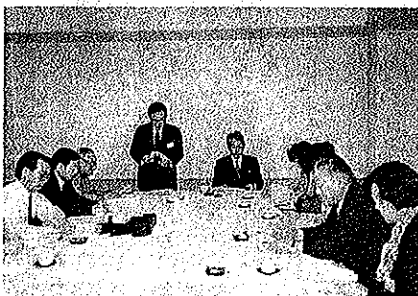
《特集》平成4年度 ブロック研究会活動報告



九州・沖縄ブロックでは沖縄県での初めての研究会開催、その他各ブロックで活発な活動が展開されました。

次年度の全国大会では、統一論題に沿って各ブロックからの提言が行なわれます。

北海道ブロック



1. ブロックの運営動向

本年度は昨年度と同じメンバーでブロックの運営に当たった。年2回の定例ブロック研究会は、発表や討議のあと、インフォーマルな場を設けて、自由に意見や情報の交換を行っている。日程や内容等研究会の持ち方に工夫を凝らす一方、広域に及ぶことや勤務態様の違いなどハンデを超えて参加された会員各位の熱意と支援に感謝している。

なお第16回研究会は、例年より1か月繰り上げて2月27日(土)に開催を予定している。

2. ブロック研究会活動報告

(1)第14回研究会

期日：平成4年3月28日(土)

会場：静修短期大学(SELA)

出席者：15名

秘書実務における評価に関して3件の研究発表が行われた。

1 「『秘書実務』の評価についての一考察」

佐々木邦子

(札幌大学女子短期大学部・非常勤)

教育評価法の基本をおさえ、秘書実務への応用を図る理論研究である。絶対評価と形成評価に視点を当て、①秘書実務における職業的視座 ②秘書の資質の評価 ③実習における評価④秘書実務の評価に対する試案などの項目を具体的に考察した。

2 「『秘書実務』の評価の方法について」

松井弘子(北海道女子短期大学)

勤務大学における秘書実務教育の基本的な考え方やその目標、具体的な指導内容や指導上の工夫などについて触れながら、秘書実務教育の成果を測定するための評価材料と評価計画、その実務について詳述した。

3 「『秘書実務』の評価法について」

松原智津子(静修短期大学)

当該教科の評価に対する基本的な考え方が述べられ、それに基づく一つの試みが、評価の方法と評価の手順に分けて説明された。そのなかで、学生自身による自己評価活動が紹介され、出席者の関心呼んだ。

(2)第15回研究会

期日：平成4年11月7日(土)

場所：札幌ガーデンパレス

出席者：15名

前回の懇談のなかで要望の強かった教育評価についての学習会が企画の中心であった。

丹治先生の司会で、浅川リーダーのあいさつ、次いで講師紹介があり、道立教育研究所の濱野先生のレクチャーが行われた。

1 「これからの教育評価等にかかわる考え方」

濱野功一氏

(北海道立教育研究所教育経営研究部)

教育評価の定義に始まり、その種類、更に江戸時代から今日までの教育評価の歴史が紹介された。また、教育評価の今日的意義とこれからの在り方が解説された。

2 「座談会」

出席者全員が発言するカタチで、日ごろ指導上の困難点や問題点について意見交換が行われたが、学校種別の異なる会員相互の共通理解を図るうえで大いに有意義であった。

(渡辺一郎 記)



関東・東北ブロック

平成4年度は今後の秘書教育の新しい展開をはかるために、これまで継続研究してきた4分科会を解散して、新たに「秘書理論研究」と「秘書教育(関連分野を含む)研究」の二分科会を設け、発展をはかることとなった。第14回研究会で会員の意見を集約し、第15回から実施した。

研究会報告(第14回研究会)

平成4年2月23日(土)中央大学駿河台記念館を会場に114名の会員が参加して開催された。

研究発表に先立ち、株式会社イトーキ総合研究所所長の南川英雄氏から「オフィス変革と経営課題」と題して、講演をしていただいた。

〈研究発表〉

〔秘書理論〕聖徳大学短期大学の山口幹雄氏が「秘書理論教育の現状と課題—秘書概論の授業展開をめぐる—」と題して、秘書概論の授業展開におけるコミュニケーションの双方向性の重要さと具体的展開方法・課題について発表した。

〔国際秘書〕東京工芸大学女子短期大学の

三井加寿恵氏が「短期海外留学制度の概要」と題して、同短大の国際性を身につけた秘書の養成を目的とした短期海外留学制度（昭和61年にスタートしたハワイ語学研修からアメリカ短期留学へ）の発展について発表した。

〔秘書実務〕 福島女子短期大学の三村善美氏が「テレビ世代のための秘書実務教育を考へる—接遇教育を中心として—」と題して、接遇教育には少人数による教育が理想とされているが、多人数・一斉教育の現状があることを踏まえ、映像機器利用をはかることで教育効果をあげた成果と今後の課題について、発表した。

〔情報処理〕 今回の情報処理グループは、従来のグループ別研究体制の変革を前にして、これまでの研究成果を総括するとともに、新しい研究プログラムの策定に向けて取り組む必要性から、「秘書の実務としての情報処理」と題して、パネルディスカッションを行った。パネリストは、早稲田速記秘書専門学校の高井由喜男氏・産能短期大学の齋藤勇二氏・渡辺裕一氏。



研究会報告（第15回研究会）

平成4年10月3日（土）城西大学女子短期大学部を会場に74名の会員が参加して開催された。

〈研究発表〉

〔秘書理論研究〕 山形女子短期大学の宮登氏が「秘書機能を考える」と題して、秘書現象領域を確定し、男女共通の秘書理論を構築するための「秘書機能」の可能性と問題性について発表した。

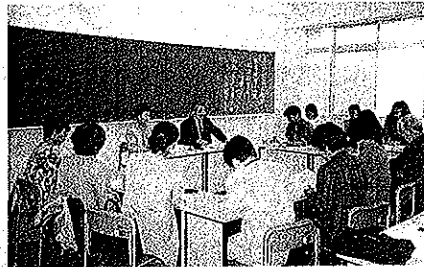
〔秘書教育（関連分野を含む）研究〕

①早稲田速記秘書専門学校の勝田喜美子氏が「シミュレーション手法を用いた秘書実務教

育」と題して、専門学校における即戦力の育成のための具体的教育方法について発表した。実務経験のない学生に実務の実際をイメージさせるため、会社設立シミュレーションを取り入れ、業務の流れをリアルに体験させながら授業を展開することができると述べた。

②川口短期大学の藤田利久氏が「秘書教育における言葉の教育—敬語指導の事例報告—」と題して、2年間という限られた秘書教育の中で、ことば（特に敬語）をどの程度まで、どのように教えるかについて、現役秘書の調査を踏まえて、発表した。

（風戸修子 記）



中部〈東海・北陸〉ブロック

1. 「中部ブロック研究会」

東海・北陸分会合同の「ブロック研究会」を、1993年1月24日（日）午後1時30分より一宮女子短期大学の吉田記念館・大講義室を会場として開催した。38名の参加があった。

まず、ブロック・リーダーの吉田寛治先生（金沢女子短期大学）が開会の挨拶と共に、来る6月の全国大会（金沢）に関する報告とあわせブロック会員の協力を依頼され、全員が拍手で意思を表した。

続いて、研究会々場校を代表して一宮女子短期大学学長・吉田武郎先生より暖かい歓迎のご挨拶を頂戴した後、研究発表に移り、河村真澄先生（岡崎女子短期大学）、西川峰高先生（金沢女子短期大学）、丸橋敏先生（名古屋聖霊短期大学）、北潟克輔先生（金城短期大学）、島本みどり先生（東邦学園短期大学）の司会によって、次の5つの発表がなされた。

- ①「秘書教育の展開の一事例——秘書として知っておきたい消費生活に関する知識」
明瀬純子先生（浜松短期大学）
- ②「秘書のキャリア・アップについて——情報化社会における秘書機能と秘書教育に関する一考察」
内山由香子先生（富山女子短期大学）
- ③「秘書の人間関係について——対大己法を中心に」
川西洋子先生（東海大学短期大学部）
- ④「情報活用演習シミュレーションの研究」
戸田昭直先生（静岡県立情報処理センター）



⑤「秘書の問題解決のための諸理論」

鎌田和江先生（愛知女子短期大学）

いずれも積極的なさまざまな角度、視点からの研究で、秘書学における問題意識、問題設定の幅や広がりをもったものであり、活発な質疑応答や発言にも支えられ、有意義な研究会となった。

また、会場となった吉田記念館は昨年夏に完成した8階建ての斬新なデザインで、参加者も時間の許す限り見学をさせていただいた。

サブ・リーダー島名正英先生（愛知女子短期大学）の挨拶で閉会し、その後、懇親会がもたれ、和やかななかにも研究発表者とのさまざまな意見や質問などの応酬が続き、さらに参加者相互の研究、教育に関する情報交換などと意義深い時間を過ごした。

2. 東海分会研究会

東海分会研究会は、1992年10月18日（日）午後1時30分より、東邦学園短期大学の秘書実務演習室を会場として開催された。東海各地から26名の参加者があった。

まず、サブ・リーダーの島名正英先生が開会の挨拶と共に、来年度の日本秘書学会全国大会が金沢市で開催されることが決定したことにより、去る7月30日に開催された北陸分会研究会での全国大会準備のための会合の概要報告をされ、東海分会としても全面的に協力することを確認した。

続いて、大石繁先生（静岡学園短期大学）、荒川恵美子先生（名古屋女子商科短期大学）、佐々木純子先生（東邦学園短期大学）の司会によって研究発表に移り、次の3つの研究発表がなされた。

- ①「秘書の専門職についての一考察」
柴山正先生（名古屋女子短期大学部）
- ②「秘書教育にもとめられるもの」
戸田昭直先生（静岡県立情報処理センター）
- ③「秘書の事例研究における諸理論の適用」
鎌田和江先生・大津洋子先生
（愛知女子短期大学）



バラエティに富んだ内容で、しばし時間の経過も忘れるほど出席者からの活発な質問や意見などが続出し、意義ある研究会となった。

（中村健壽 記）

3. 北陸分会研究会

北陸分会研究会は、1992年7月30日（木）午後1時から4時半まで、金沢市の都ホテルを会場に開かれた。参加者は、東海分会から出席した島名、中村両サブ・リーダーを含めて19名（非会員3名含む）。

まず、金沢女子短期大学の吉田寛治ブロック・リーダーから第12回全国大会の金沢開催の決定についての報告があった。

引き続き行われた研究発表では、富山女子短期大学の内山由香子先生が「秘書のキャリア・アップについて——短大生の意識調査結果の分析を通して」と題して、学生の就職意識の因子分析を踏まえて、キャリア・アップのための条件を問題提起した。発表に対して、調査の方法論に関する原理的問題から地域差の現状問題まで活発な質疑応答が行われ、充実した研究会となった。

その後、研究会を全国大会準備のためのブロック初会合に切り替え、日程と場所、大まかなタイムスケジュール、大会委員会・事務局組織および協力体制の大筋などを確認し合った。

（西川峰高 記）

近畿ブロック



【第15回研究会】

平成4年3月20日「なにわ会館」で53名の参加者をえて行いました。

講演は、関西学院短大の居樹伸雄先生に「派遣社員について」と題して行われました。人材派遣法は、昭和60年に成立しています。業務としては、①専門的知識・技術・経験が必要な業務 ②終身の人事管理には余りむかない業務という2原則があります。適用業務は16業種で、事務がかなり広い範囲を占めています(秘書、ファイリングも入っています)。派遣社員として働く動機としては、①自分の生活とのバランス ②希望の時間に働ける ③能力経験が生かせる、といったことがあがってきます。不満としては、①就業の安定性に欠ける ②休暇をとりにくい ③自立していくのに苦しい、といったことがあげられます。

派遣社員は、賃金・給与は派遣先から(労働基準法の適用をうける)労働の安全面は派遣先(労働安全衛生法の適用をうける)とい

た二重性をもっています。こういった多面的な派遣社員とりわけテンポラリー秘書について、我々も研究すべき時期に来ているのではないかと思います。そういったことを考えると示唆に富むものでした。

個人研究発表は、神戸学院女子短大の小原将温先生が「秘書学の領域(1)」と題して定義・機能面から発表されました。聖和大学短大部の林雄太郎、黒田広美両先生の共同研究「裁判所の秘書その1」は、黒田先生が主として最高裁判所の機構面から発表されました。関西学院短大の仁平征次先生は「法令に見られる秘書」と題し、各法規を詳細に検討して、その中に見られる「秘書官」についての発表をされました。班別懇談会は6月の全国大会の分科会のテーマ「秘書学の領域」「秘書のオフィス環境」の2班にわかれて討論しました。

【第16回研究会】

平成4年10月3日「なにわ会館」で、40名



の参加者をえて行いました。

総会では、田中篤子ブロック代表から平成3年度の事業報告、会計報告がありました。承されました。

講演は、摂南大の秋浦勝先生の「楽しくなる文章作成講義」で、ユーモアを交えてお話をいただきました。授業にあたって、我々が見失っていた点をつかかれたような気がしました。

個人研究発表は、神戸学院女子短大の小原将温先生が「秘書学の領域(2)」と題して、主として経営学の立場から考察されました。大手前女子短大の永井宏一先生は、「大株式会社における秘書業務と株主総会業務」と題し、株主総会業務が秘書業務の一部に入るといふ発表でした。これには異論も出ました。芦屋女子短大の松井博子先生は「大阪船場の個人商店における番頭の職能」と題し、戦前の船場の個人商店における番頭の役割について聞き取り調査を交えて発表されました。滋賀文化短大の村上典子先生は、聖和大学短大部の林先生との共同研究を「秘書における経営理念の理解に関する研究(第1報)」と題し、松下電器における事例研究をもとに発表されました。

個人研究発表終了後、次期全国大会で近畿ブロックが理論部門の提言にあっているもので、それをまとめる理論グループと、今回の講演をもとに話し合う、国語表現のグループにわかれてグループ討議を行いました。

(福永弘之 記)

中国・四国ブロック

1. ブロックの運営動向

運営委員が新しいメンバーとなってスタートした平成4年度は、第9回研究会の開催、ブロック会報第6号の発行など、予定の活動を順調にこなし、1年間の活動を無事終了した。

2. 研究活動

今年度のブロック研究会は、1992年10月24日(土)13:00~17:00、広島市のホテルニューヒロデンにおいて41名の参加者を得て開催された。会に先立ち、ブロックリーダーの森貞俊二先生より開会の挨拶がなされ、その後、以下のテーマによる研究発表に移った。(発表順・敬称略)

第1セッション

- (1)リンカーンの2人の秘書「リンカーン伝」
10巻の成立過程
藤田雅子(広島女子商短期大学)
- (2)秘書学の確立と教育の課題
堀 正久(四国大学短期大学部)
- (3)秘書に求められる能力と対処行動について
~特に、対人関係の対応能力を
中心として~
今林宏典(呉女子短期大学)
- (4)秘書学の研究対象に関する一考察
~システム論からの視座~
川村郁夫(宇部短期大学)

第2セッション

- (5)情報処理教育の効率アップのための簡易教

材提示装置

- 中村寛志・山本忠雄(瀬戸内短期大学)
- (6)「オフィス」と学生の意識について
磯田圭子(安田女子短期大学)
 - (7)秘書科基礎情報科目におけるフィードバックシステムに関する一考察
吉田行宏(安田女子短期大学)
 - (8)秘書実務教育における情報ネットワークの利用

佃 昌道・山野邦子(高松短期大学)

第3セッション

- (9)女性の職場進出に関する諸問題
~阻害要因~
三宅耕三・山本慶也
(香川短期大学)
- (10)秘書教育における情報処理教育の実態調査
~西日本地区の短期大学・専門学校を
対象として~
清水昌美(川崎医療短期大学)
- (11)企業における女子新入社員教育
~業種別分析を中心として~
垣見益子(中国短期大学)

以上、発表の先生方にとっては充分とは言えない短い時間であったであろうが、参加者一同有意義な時間を持つことができた。この研究会での時間不足は、後の懇親会に会場を移して十分に解消されたことと思う。

なお、今回の研究会では昨年より3件多い11件の研究発表があり、土曜日の午後半日という限られた時間内で運営するには、限界が来ているのではないかという意見も出ており、



今後の研究会の日程について再検討する時期が来ていることを痛感している。

今回は広島が開催地ということで、胡義博先生を中心に運営されたが、次回平成5年度は松山での開催が決まっており、第10回目の研究会ということで、記念すべき研究会になるよう、準備を進めているところである。

(渡辺和枝 記)



九州・沖縄ブロック



1. ブロックの運営動向

平成3年度運営委員会(平成4年2月8日)において第12回研究会を5月16日福岡市、第13回研究会を11月那覇市で行うことを決定した。また、東筑紫短期大学において第3回運営委員会を開催し、第13回研究会の発表者、第14回研究会の場所、日時等を決定した。

2. 研究会活動

—第12回研究会—
期日:平成4年5月16日(土)
場所:天神幸ビル
出席者:31名
ブロック研究会のリーダー他運営委員の交替後初めての研究会となったので、田中リー

ダーの挨拶の後、サブリーダーおよび運営委員の紹介が行われた。

花崎正子先生(東筑紫短期大学)の司会により「秘書実務教育の現状と課題」というテーマで光岡延幸先生(九州龍谷短期大学)が、秘書実務教育がどのように位置づけられ、どのような教育が行われているか、また、特に接遇教育の実態はどのようなものであるか、について発表を行った。

続いて中村長哉先生(福岡女子短期大学)の司会により「補佐機能の主体性、範囲一政治的黒衣と政治的黒幕—」と題して室井廣一先生(東筑紫短期大学)が、補佐という言葉は主体性とは直接的に矛盾する意味をもっている、秘書という言葉のもつこの逆説的「補佐性の主体性」を考へてみる必要がある、と提言した。

研究会後の懇談会では「九州・沖縄ブロック研究会活動の活性化について」のリーダーからの提言ならびに参加者相互の意見交換が行われた。

—13回研究会—

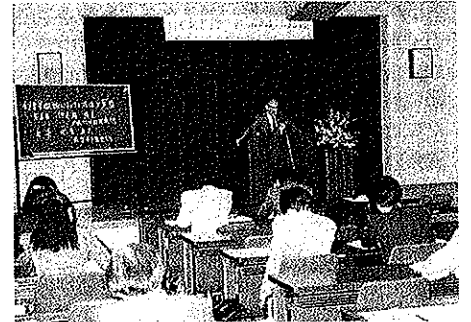
期日:平成4年11月28日(土)
場所:那覇地域職業訓練センター

出席者:40名

研究会としては初めて沖縄県での開催となったが、実行委員長の伊志嶺博志先生(沖縄キリスト教短期大学)および富田佑未先生(マネージメントリード)のご尽力により多数の参加があった。田中ブロックリーダー、伊志嶺実行委員長の挨拶の後研究発表に移った。

初めに北原康司先生(佐賀女子短期大学)の司会により伊志嶺博志先生が「秘書学概論における理論と実務」と題して発表を行った。秘書の定義を踏まえて秘書とは何か、秘書業務とは何かを考え、秘書業務の一つ「接遇」を分析し、秘書学概論における秘書理論とは何か、について提言があった。

続いて花崎正子先生の司会により北原康司先生が「所謂、専門家秘書としての法律秘書について」というテーマの下に、法律および規則により拘束される事務職員を「法律秘書」という専門家秘書の範疇で論ずることはできない、と論理を展開した。



最後に貴島一郎先生(宮崎女子短期大学)の司会で富田佑未先生が「秘書教育における人柄教育の実践」と題して発表を行った。秘書教育において、職務上の知識や技能の修得のみならず、資質の向上を図るための指導も欠かせない、などの提言があった。

発表終了後、会場を移動し参加者相互の親睦を深めるために富田佑未先生の司会進行によって懇親会が催された。沖縄キリスト教短期大学学長の原喜美先生もご参加になり、盛会のうちに無事全てのプログラムが終了した。(坂本一登 記)

各ブロックのリーダー・サブリーダーおよび運営委員(平成4年度)

	北海道	関東・東北	中部(東海・北陸)	近畿	中国・四国	九州・沖縄
リーダー	浅川 純二 (北海学園短期大学)	森 敏道子 (産科短期大学)	吉田 寛治 (金沢女子短期大学)	田中 薫子 (松山女子短期大学)	藤 貞俊二 (松山大学短期大学)	田中 友希 (福岡女子短期大学)
サブリーダー	白川 智洋 (山形短期大学)	佐藤 啓子 (常盤大学短期大学部) 堀江 光 (城西大学女子短期大学部)	島名 正実 (愛知女子短期大学) 中村 健壽 (新潟県立大学短期大学部)	藤 永弘之 (兵庫県立短期大学)	岡田 繁 (川崎短期大学) 三宅 耕三 (香川短期大学)	甲斐 明 (九州共立大学)
運営委員	大賀 淳 (北海道教育女子短期大学) 丹治 和典 (神奈川短期大学) 能登 洋子 (札幌女子短期大学) 渡辺 一郎 (神奈川短期大学)	天野 恒男 (東京家政学院短期大学) 大宮 登 (山形女子短期大学) 佐藤 東丸 (東京工芸大学女子短期大学部) 高井 由喜雄 (川口学院) 谷口 佳子 (共栄学園短期大学) 中佐 秀 (十文字学園女子短期大学) 橋 中国 明 (東京スクール・オブ・ビジネス) 藤田 利久 (川口短期大学) 矢沢 園子 (津田スクール・オブ・ビジネス)	(東海地区) 伊藤 和子 (市川短期大学) 村 直彦 (同朋女子短期大学) 佐々木 裕子 (愛知学院女子短期大学) 島 本みどり (東洋学園短期大学) 清水 たま子 (江南女子短期大学) 水野 清子 (名古屋女子短期大学) 出羽 昭 (富山短期大学) 岡野 幹枝 (富山短期大学) 奥村 直彦 (二宮女子短期大学) 北 湖 克 輔 (金城短期大学) 水谷内 徹也 (富山大学)	刺木 淳己 (京都短期大学) 宇野 香穂 (徳島大学短期大学) 緒 方 真 彦 (平女学園短期大学) 武田 寿子 (大阪国際短期大学) 矢野 智恵子 (京都府立短期大学)	胡 鶴 清 (佐賀女子短期大学) 坂本 登 (福岡女子短期大学) 陳 展 帆 (福岡女子短期大学) 光岡 延幸 (九州龍谷短期大学) 室井 廣一 (東筑紫短期大学)	北原 康司 (佐賀女子短期大学) 藤本 登 (福岡女子短期大学) 光岡 延幸 (九州龍谷短期大学) 室井 廣一 (東筑紫短期大学)

平成4年度(1992年度)入退会者

【新入会員】(平成5年2月末日現在)

〈会員名〉	〈勤務先〉
井口 郭子	横浜外語ビジネスアカデミー
* 池内 健治	産能短期大学
岩 森 龍夫	静岡学園短期大学
白 杵 久子	瀬戸内短期大学
内 山 由子	富山女子短期大学
大 宮 智江	山形女子短期大学
* 大 村 真理子	常葉学園富士短期大学
小 川 敏 満	市町学園短期大学
小 野 塚 久枝	東京家政学院短期大学
川 原 桂子	城西大学女子短期大学部
宮 尾 昌子	函館大谷女子短期大学
富 永 美紗子	女子聖学院短期大学
小 久 次 弘子	広島中央女子短期大学
* 國 武 英 昭	大電林武全社
小 池 澄 男	東京家政学院短期大学
小 郷 清 美	梅花短期大学
坂 本 ノリ子	赤塚学園ビジネス専門学校
坂 元 宇一郎	丸紅パーソナルサポート株式会社
* 佐々木 泰 樹	三井東洋化学株式会社
芝 亜 紗 美	財団法人日本経営協会
新 長 章 典	山陽女子短期大学

須々田 浩 子	青森短期大学
瀬川 隆	金沢女子短期大学
武市 ルミ	淑徳短期大学
田中 朋子	園田学園女子短期大学
田中 義 昭	関西学院短期大学
辻 本 直 樹	赤塚学園ビジネス専門学校
中曾根 恵美子	鶴見大学女子短期大学部
平澤 洋一	城西大学女子短期大学部
広 瀬 良子	北九州電子ビジネス専門学校
* 福 島 美穂子	大阪青山短期大学
福 田 一 美	金沢女子短期大学
* 福 田 繁 子	高知福祉専門学校
藤 井 真知子	企画スーヴォ
穂 積 健	市町学園短期大学
穂 積 正 久	四国大学
* 堀 眞由美	産能短期大学
森 義 直	香川県明善短期大学
森 下 亨	大阪短期大学
* 山 田 博 章	駒沢女子短期大学

(※研究会員)

【退会会員(個人会員)】

〈氏 名〉	〈勤務先〉
松 本 幹 子	九州ビジネス専門学校
戸 田 忠 一	城西大学女子短期大学部
前 田 治 郎	関西学院短期大学
栗 原 太 郎	北見商科高等専門学校
佐 伯 三麻子	松山東雲短期大学
谷 口 景 子	名古屋大学大型計算機センター
高 橋 祥 子	東京工芸大学女子短期大学部
長 井 石 太 郎	日商簿記専門学校
仲 尾 次 秀 子	沖縄キリスト教短期大学
上 山 俊 幸	東京工芸大学女子短期大学部
甲 斐 明	佐賀短期大学
浅 沼 文 哉	東放学園専門学校
佐々木 ひろ子	日本医歯薬専門学校
上 戸 崇	瀬戸内短期大学
北 見 博 治 郎	新潟県マネジメントスクール

【退会会員(賛助会員)】

〈会員の名称〉	〈学校名〉
菅 原 学 園	仙台ビジネス専門学校

【物 故 者】

〈氏 名〉	〈勤務先〉
田 中 喜 憲	星稜女子短期大学
橋 本 寅三郎	東北外国語専門学校